



宇都宮短期大学附属高等学校生徒会

武幸

ひめまつ 目次

(第四十一号)

表紙絵……………島田武幸 題字……………石川木魚 写真……………写真部・編集部

巻頭書

教育は人なり……………校長 須賀 淳……………1

発達するわが学園・記念ホール建設へ……………3

◇自分たちで活性化を (生徒会会長に就任して)……………山越 悦子……………4

◇積極的な参加を望む (任務を終えて思うこと)……………橋本 佳子……………5

へ声 最近最も印象に残ったこと……………6

「初めてスキーに挑戦」 三年 市川 和美 「敬語の使い方」 一年 大塚亜紀子

「梔子そば食い競争」 三年 本沢 陽子 「ある店長の生き方」 一年 小池 典子

「歓声」 二年 白石 裕子 「自己に打ち勝とう」 一年 石塚真由美

「遠足」 二年 五十畑晴代 「美しい涙」 一年 福田 早苗

\*心に強く響くもの(校内読書感想文入賞作品)……………12

「母は枯葉剤を浴びた」 三年 高瀬 綾子 「華岡清洲の妻」 二年 半田 友里

「友子は死なない」 三年 大町 純代 「車輪の下」 一年 鈴木由香理

「己に克つ」 三年 落合 初枝 「車輪の下」 一年 岡本奈津美

「隠された十字架」 二年 早瀬ひとみ 「友情」 一年 川嶋美智代

「おかあさん命をありがとう」 二年 服部 裕子

作品集

詩 (三年) 吉川 文子・杉浦 恵・小島 由美 他

短歌 (二年) 高濱智英子・和田 浩実・菅野 陽子 他

俳句 (三年) 富山美佐子・駒田 修子・大浜 誠 他

☆あとらんだむ

〔三年〕 田口 理恵・石郷岡京子・柴田 典子 他

月関西・四国・大洗・日光の旅

〔三年〕 後藤 千品・遠藤 律子・中山 則子 他

〔二年〕 手塚 弘恵

〔二年〕 黒川 容子・若井 里代

招待席

伊沢 雪夫・長谷川忠良・森島 一雄・角海 武・和久 誠

◆わがホームルームの紹介

附属中三十一

等一回卒業生を送る 三年 永吉 俊博 修学旅行の思い出 三年 大島 充史  
北九州地方を訪ねて 三年 石垣 尚子 楽しい修学旅行 三年 松村友紀子  
一日旅行の思い出 一年 徳江真理子 PTA役員 他

◆委員会・クラブ活動この一年

◆学友会の奉仕活動

◆学園ニュース

◆告知板

◎六十一年度生徒会報告

□就職状況

□職員住所録

□編集後記・奥付

学園の四季



校長先生の握手に送られ卒業(三月)



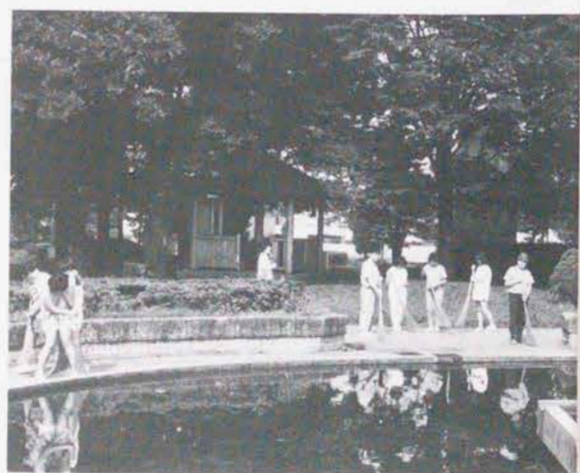
▲にぎわう日光スケート教室(1月)



▲さくらの花もほころぶ入学式(4月)



▲全員参加の活動・生徒総会(6月)



▲校友会奉仕作業の旭支部員(7月)

宇都宮短期大学附属高等学校

校歌

作詩 菅谷徳次郎  
作曲 野原幸夫

Musical score for the school song, consisting of five staves of music with Japanese lyrics written below the notes.

校歌

一 二荒の高嶺を 遙かに仰ぎ

学びの道筋を まさしくあれと

かたみに誓いて いそしみ励む

教への庭こそ げに尊けれ

あわれ尊 この学びや

二 庭面に茂れる 姫松小松

変らぬ操は 千代万代と

かたみに祝いて いそしみ励む

学びの庭こそ げに芽出度けれ

あわれ芽出度 この学びや



▲若さぶつけて騎馬戦たけなわ



▲それノ頑張り  
うあと、もう一  
周



▲腰を落とし、  
それ行けノ



▲ああ、じれったいな〜アンバンめノ

### われら中学生



▲私たちも負けずにいこうよね▲

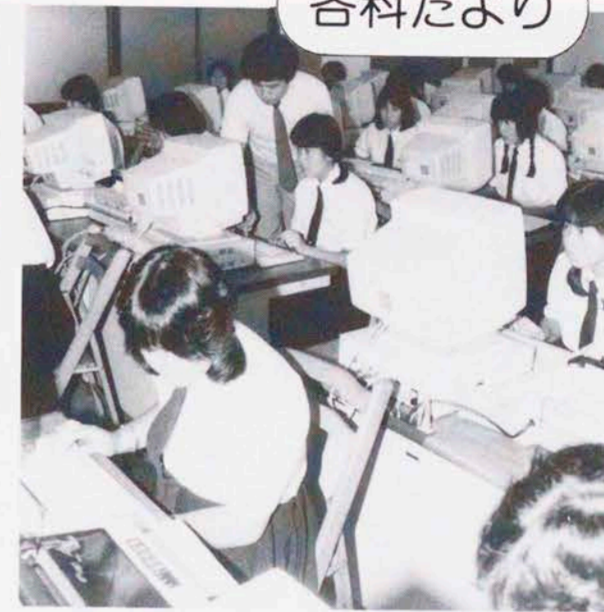


▲初の授業参観で試食のお母さん達(家政科)



▲まず体力ノ球技大会でも健闘(普通科)

### 各科だより



▲ワープロ室は県内最高の設備(商業科)



▲学校祭に歌劇を披露して好評(音楽科)



▲何杯いけるか? 梔子そば競争(調理科)

思い出の修学旅行



▲日本最古の飛鳥寺でお説教を聞く(明日香)



▲5月の青い空、海、風(瀬戸内海)



▶二十四の鐘の前で  
記念撮影(小豆島)



▶千三百六十八段に挑戦(金刀比羅宮)

▲あーら可愛い  
わねえ(鏡子溪)

生徒会役員



会長 山越悦子

副会長



副会長 神山佳代



副会長 木村真弓

会計



会計 今井なおみ



会計 沼尾宏恵

庶務



庶務 赤上陽子



庶務 福田有里

議長団



議長団 渡辺貴重



議長団 岡本勝美

議長団



議長団 石川智子



議長団 大塚孝文

巻頭言

教育は人なり

校長 須賀 淳



な選択の道を開く」とトーンダウンした。そもそも現在のいじめをはじめとする教育荒廃が、ただ六三三四という学校体系の間仕切りを変えることで解決できるものではないことは明らかである。

ところで臨教審の第二次答申では、現在の教育荒廃の診断と処方にかかわる重要な視点について、いくつかの点を指摘しているが、その一つとして、学校、教師、教育界に対する信頼の低落があげられている。私は戦後四十年近く文部省および本学園において初等中等教育の仕事

日本の教育界は臨教審で大揺れである。鳴り物入りの大宣伝で発足した臨教審は、すぐにも六三制の大改革を行うような意気込みであったし、国民もまた一億総教育評論家となって議論百出、さわがしい限りであった。その後臨教審も審議が進むにつれて、「学校体系については現行の六三制を基本とし、これと並行的に多様

にたずさわってきたが、今あらためて痛感していることは、「教育は人なり」教員の職務の特殊性と責任の重要性である。臨教審の指摘をまっまでもなく、現在の教育荒廃を克服し、この社会の変化や文化の発展に対応して学校がその責任を果してゆくうえで、教育の果たす役割はきわめて大きい。教員の資質の向上、とくに新任教員に対する現職研修の重要性が叫ばれるゆえんである。

私の学校の教員や私が講義に出ている宇大の教育学部の学生諸君に対し、私はつねに他の職業と異なる教師という仕事の尊さと責任の重さについて訴えつつづけている。これは人生の前半を教育行政のデスクワークで過し、後半を教育の第一線で学生生徒に身近に接して、その間の生甲斐の大きな違いを身をもって実感しているからである。



栃木県広報誌「とちぎ」七月号に掲載されたものを転載させていただきました。(右写真) 編集部

【校長略歴】 宇都宮高校、東京大学卒業、昭和二十四年文部省勤務、文部大臣秘書官、文化財課長、教科書課長、初等教育課長等歴任。昭和四十三年須賀学園に戻る。現在、須賀学園理事長、宇都宮短期大学長、同附属中学・高等学校長、宇都宮大学教育学部講師(教育法規担当)、文部省大学設置審議会委員、栃木県私学審議会委員、栃木県公安委員等。

## 記念ホール建設へ



三年後に  
本学園は創立九十周年を迎えます。女子に最も適切な技芸を教授し、その時代と環境とに順応する実際の婦人の養成を教育目標として、明治三十三年に須賀栄子先生によって創設された本学園は、その後教職員、生徒の努力と卒業生や父兄の皆様の協力によって発展の一途をたどってきました。もちろん、その陰には太平洋戦争による戦災で校舎を全焼するなど幾多の困難がありました。現在では短大と普通、家政、商業、調理、音楽の五つの科を有する高校、そして附属中学をもつ一大総合学園にな

り、その優れた教育内容と施設設備は広く県内外に知られているところです。その創立九十周年を記念して、現在の講堂を解体し、その跡地に「須賀栄子記念講堂」を建設することになりました。

現在の講堂は終戦後間もない昭和二十九年にPTAの協力により完成し、建国記念日である二月十一日の佳き日に落成式が行われました。この旧講堂は窓を大きくとってあるので、室内は明るくて清潔であり、外装も落ちついた色調で、当時としては斬新な設計で、たいへんすばらしいものでした。

以来、私たちの多くの先輩は、ここで入学式や卒業式、音楽会や講演会、あるいは展示会、PTAの諸会合などいろいろな学校行事に使用してきました。いわば、心のふるさと、でもありません。

本学園の施設は新築や改築により、現在では校舎が一新してしまっただけ、この講堂は本校の歴史を残す貴重な建物になっています。しかし、生徒数も二千四百名と建築

時とは比べものにならないほどの大規模校になり、したがって講堂も機能的にさらに優れたものが望まれているので、今回の新築に踏みきったものです。新しい記念講堂は計画案によると、鉄筋四階建て、二階は玄関ロビーにつづいて、これまでのように色々な用途に対応できる多目的な平面床のホール。二、三階は固定座席七百余席を備えた大ホールとして、講演会、音楽会、研修会などに使用されます。このほか付属室としてリハールサル室や楽屋など多くの部屋を備え、エレベーターで四階まで上下できるという機能的なものです。総面積二万四千平方メートル。外壁はしびいレンガ色の豪華なもので、従来の一号館からも直接出入りできるようになっています。

この大ホールは、内容的には宇都宮市文化会館にまさるとも劣らない立派なホールであり、昨年竣工した宇都宮短大の須賀友正記念ホールよりも大きく、もちろん他の県内の小中高校や大学にはない本格的な大ホールです。着工は本年三月、完成は来年七月の予定です。(写真は完成予想図)

返って見ると、とても良いことをして来たのだと思います。

私が今まで支部長としてやってこられたのも、先生や副支部長、支部の皆が助けてくれたからです。本当に良い経験だと思えます。

来年度、この支部を引き受ける方、どうぞより活発な奉仕活動を期待します。頑張ってください。

(支部長・毛塚 幸子)

### これからの支部会に

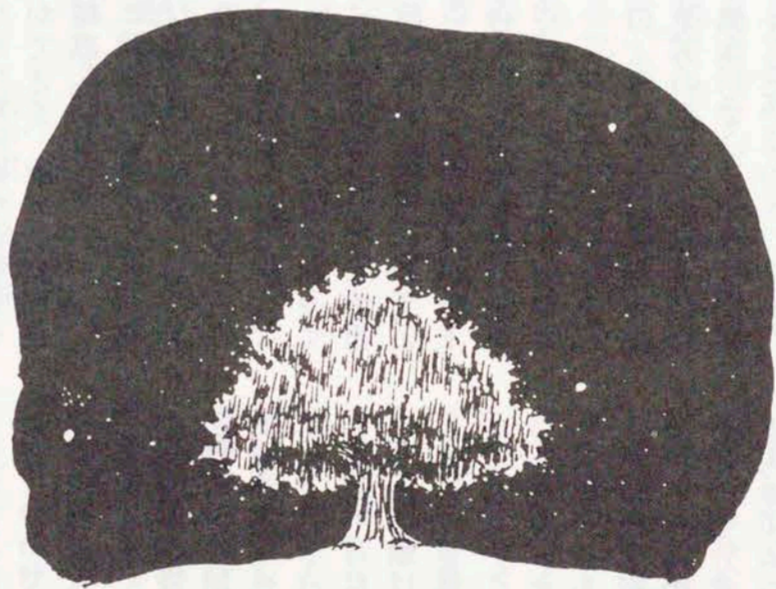
黒磯 支部

私たちの支部会は、黒磯・東那須野・日新・厚崎・那須・高林・高久・川西の八中学校四十三人から成り立っています。しかし、各中学校の設置されている場所が、まったくばらばらのため活動も限られます。

そこで、私たち学友会は、自分たちの出来る事を考えました。手造りの雑巾を福祉センターへ持っていくこと、支部会内で募金を集めて、下野新聞社の歳末助け合い運動に寄付しました。このような活動は、何年も続いている

事なのです。

来年は、今年よりも、全員が力を合わせて、何事にも意欲を持って行動し多めに活躍してくれることを期待しています。(支部長・三本木里佳)



3-3 三王 幸子

## 学園ニュース

### 校長先生が県公安委員に 故友正先生と親子二代



須賀 淳校長先生は昨年十月一日に栃木県公安委員に任命されました。公安委員は警察行政をつかさどる重要な役職だけに、高潔で高正な人格が望まれますが、前理事長で本校の第二代の校長先生だった須賀友正先生も十八年間にわたり栃木県公安委員をつとめ、公安委員長にも選ばれました。今回の任命で、校長先生は親子二代にわたって公安委員として重要なお仕事にたずさわることになりました。

須賀 淳校長先生は昨年十月一日に栃木県公安委員に任命されました。公安委員は警察行政をつかさどる重要な役職だけに、高潔で高正な人格が望まれますが、前理事長で本校の第二代の校長先生だった須賀友正先生も十八年間にわたり栃木県公安委員をつとめ、公安委員長にも選ばれました。今回の任命で、校長先生は親子二代にわたって公安委員として重要なお仕事にたずさわることになりました。

### 栃木県文化功労者 元本校教諭

#### 手塚 武先生逝く



栃木県文化功労者で、長い間本校で教鞭をとっておられた手塚 武先生が、

昨年四月四日、心不全のためお亡くなりになりました。八十歳でした。

手塚先生はまた、生徒会誌「ひめまつ」の育ての親として、編集のご指導にあたってくださいました。

手塚先生は明治三十八年、鳥山町に生まれ、早稲田大学を卒業後、新聞記者、法務教官などをへて昭和三十八年から本校の教壇に立ち、国語を担当して昭和五十六年まで熱心に生徒の教育にあたられました。

先生はまた本県を代表する詩人としても著名で、下野新聞の「しもつけ文芸」欄の詩の選者として多くの後輩の育成に努め、本県の文壇に大きな貢献をされました。このため昭和五十二年



には、名譽ある栃木県文化功労者に選ばれました。  
心からご冥福をお祈り申します。  
写真は、在りし日の手塚先生

### 齊藤尚美先生

#### 結婚そして留学

●ご主人と一緒にアムステルダムへ●

本校音楽科の講師の齊藤尚美先生は去る一月十一日、東京・目黒の日本聖公会聖パウロ教会で花井哲郎さんと結婚式を挙げ、同二十五日にご主人と一緒にオランダのアムステルダムに留学のため出発されました。  
尚美先生は本校音楽科から武蔵野音楽大学に進み、卒業後は本校の講師として教鞭を執るかたわら、宇都宮音楽研究に所属して、オペラ公演や演奏会に出演してきました。

ご主人の花井さんは東京都出身、早稲田大学哲学科を卒業後、二年間ドイツに留学して、ルター派の神学校でド

イツ語、ギリシャ語、神学を学んで帰国しました。

その後チェンバロを始め、聖パウロ教会のオルガニスト、聖歌隊長などをつとめていましたが、洗礼を受けている尚美先生が同教会に通うようになってお知り合いになったとのことでした。

ともにバロック以前の古い音楽を学ぶという同じ目的で、お二人仲よく留学されました。

どうぞ、お幸せに。

### 黒子先生

#### ホールインワン

この一年間のビッグニュースといえば、なんといっても黒子仁先生のホールインワンでしょう。

黒子先生は昨年十一月三十日にめでたく結婚されましたが、結婚式の当日に、式場となった宇都宮市のグリーンプラザで、結婚式を祝ってのイベントの一つ、ゴルフでナイスショットもナイスショット、見事ホールインワンと

なった。

ところが、このグリーンプラザはPRも兼ねて「見事ホールインワンしたカップルには披露宴費用を無料にします」ということだったので、黒子先生は二百万円余の費用が一振りで無料というわけ。

これまでこのイベントに挑戦したカップルは十年間で三千組だそうです。黒子先生がはじめてだそうです。新聞雑誌にも紹介されましたが、めでたし、めでたし。

### ワープロ室全国に紹介

本校のワープロ室は新鋭機四十六台を設置、県内随一といわれていますが、その活用状況や今後の展望などが業界誌であるシャープの「SBD・NEW S」十一月号（昭和六十一年十一月十三日発行）によって、広く全国に紹介されました。

現在、文書業務という授業の中で、商業科二年生と三年生が、毎週一時間から二時間このワープロを学んでいます。

すが、ワープロ部でも商業科だけでなく、普通科や家政科の生徒などの部員が効果的な授業をつづけています。  
これからは日本商工会議所の「日本語ワープロ技能検定」に向かってがんばるといふことです。

### 演奏会開く

#### ●チェンバロ・オーボエの両者●

本校音楽科卒業の二人の先輩による演奏会が、昨年十二月二十日に本校合奏室で開かれ、在校生に大きな感銘を与えました。

この二人は、本校音楽科から桐朋学園短期大学を卒業しオーストリア・ウィーンに留学していたチェンバロの演奏家として活躍している沼尾美和子さんと、同じく本校音楽科から東京芸大音楽部器楽科を卒業しドイツのハンブルグ国立音楽大学に留学、現在フリーのオーボエ演奏家として知られている齊藤享久さん。

当日は普家商調音の各科の生徒にい

ろいろな曲目を演奏して好評でした。

### 大作沖縄紅型を出品

去る十月十五日から十七日の三日間、東武宇都宮百貨店四階特別催事場で、全国高等学校文化連盟手芸部会主催の「第八回高校生手芸作品展」が開催されました。この手芸展も回を増すごとに参加校数も増え、毎年、好評を得ています。

本年度の参加校数は、二十四校、出品された作品数約二百六十点でした。作品には、小さなものから大きなものまで幅広く出品されました。手芸というものは、とても根気のいる仕事です。中途半端な考えではけして作品を完成させることはできないと思います。そんな中で本校で製作した型染沖縄紅型は、製作日数約十か月を費やした作品です。

型の切り抜きから始まり、のり置き、染色、のり落し、そして裁断、縫製などです。出来るまで、毎週土曜日は先生の家まで習いに通い、夏休み中も



▲盛況だった手芸作品展

何度も通い十月半ばについに染め上がり、それからは、三年生の力の見せどころで裁断、縫製を経てやっと十一月完成となりました。その他、パッチワーク、クロスステッチのベッドカバー、ウェディングドレス、カクテルドレスなど本校からも数多く出品しました。どれもこれも好評でした。他校の作品も、「わあすごい」「かわいい」などの声の多い作品がたくさんありました。でも沖縄紅型は特に良かったと思っております。

# 告知板

## 61年度役員決まる

### PTA総会開かる

昭和六十一年度のPTA総会は五月三十一日本校講堂で開かれ、次の新役員が決まりました。

- (昭和六十一年度役員)
- 会長 松岡 祐祥 (宇都宮)
  - 副会長 篠崎キミエ (宇都宮)
  - 渡辺 衛 (宇都宮)
  - 荒木 猛男 (宇都宮)
  - 南木 一弘 (宇都宮)
  - 押久保 弘 (宇都宮)
  - 六川 彦次 (宇都宮)
  - 大野 幹夫 (宇都宮)
  - 大川 勝也 (栗野)
  - 中尾雄三郎 (結城)
  - 福田 昌司 (宇都宮)
  - 須賀 淳 (本校)

## 学校視察会のお礼状から

今年度も九月に、県内外の各中学校校長先生による本校視察会が開かれました。

今回は九十七名の参加があり、午前十時から須賀校長先生のあいさつがあり、そのあと普通科、音楽科はじめ各科の授業参観と、こんど改装されたワipro、コンピューター室や物理室、被服室などを見て回りました。

つづいて須賀校長先生から約四十分にあたって本校の教育方針や生徒の進路などの説明が行われ、試食会に移りました。メニューは調理科三年二組の皆さんが、高島孝先生の指導で腕を振った「初秋の献立」(会席膳)を味わっていただき、音楽科の生徒の演奏を

- 相談役 高山 源吉(石橋町)  
岡田 喜三(宇都宮)  
小出 弘(宇都宮)  
幹事 太田 茂雄(本校)  
三矢 静江(本校)  
常任委員 中村 守(塩原)  
以下百八名

お聞きいただきました。

帰りには家政科生徒が心をこめてつくった、しほり染めとケーキを差し上げましたが、出席者から「すばらしい」「立派な学校だ」「生きた教育をしている」などの感想が聞かれました。さらに、何通ものお礼状をいただきました。紙面の都合で、全部をご紹介しますことができません。お詫びいたします。

宇大附属中副校長

海賀 秀治先生より

三年五組 五十嵐篤子さんへ  
拝啓 今日はずばらしい秋の空です。一生懸命がんばっていらっしゃる事とおよろこび申し上げます。

さて先日、宇短大附属高校の入試説明会に出席させていただきましたが、その帰りに学校からおみやげをいただきました。帰ってから開けてみて、とてもうれしくなりました。

きれいなリボンに花がさしてあり、ピンクのカードに「心をこめて作りました、お召しあがりください」と、きちんとした上手な字がありました。中

は非常にきれいに作られたケーキ、味もすばらしく市販されているものより数段上で、焼き上がりの歯ざわり、舌ざわりは抜群でした。仏様にもあげ、家中でおいしくいただきました。

授業のときに焼き上げ、自分では少しも食べないで全部贈り物にしてしまつて、そんな大切なものに我が家で全部食べてはもったいないと思いましたが、本当に有難うございました。五十嵐さんの気持ちに感謝します。併せて学校に対しても心から感謝いたします。感謝のしるしとしては、ささやかですが、お礼の気持ちを送らせていただきます。普段にお使いいただければうれしく思います。

卒業学年では何かと忙しいことでしょう。健康に留意されてすばらしい高校生活をお送りくださるようお祈りいたします。

手紙で申し訳ありませんが、まずはお礼まで。 敬具

日光中学校長

本間 政和先生より

一日ごとに日光の紅葉もその美しさをましてきたこの頃です。いかがおすごしですか。

先日の入学説明会の時は、心のこもったお土産をいただき、本当にありがとうございました。最近の生徒は、とくとかくマイナスのイメージでとらえられがちな世の中にあつて、思いやりの心を忘れず、日々一生懸命生きていらっしゃる皆さんに深い感銘を受けました。

一人は一校を代表する。という目標が生徒一人一人に行きわたり、清潔と和が結びつき、生き活きた学園になり、その言動がすばらしい作品として花ひらいたのかも知れませんが、心あたたまる行為に心から感謝とお礼を申し上げます。

これからも、今の気持ちを大切に、あなたと明日の日本のために、しっかり生活して下さい。時には日光にもおかけ下さい。連絡をいただければ、

## ✧ 編集後記 ✧

三月の声を聞いて、日まじに暖かくなってきました。春はもうすぐです。そして、いよいよ卒業式を間近にひかえて、巣立ちゆく三年生をはじめ全校の皆様「ひめまつ」四十一号をお届けできるのは、私たち編集委員にとって何よりの喜びです。

本校は三年後には創立九十周年を迎えますが、その記念行事の一つとして、本誌でも紹介されているように、すばらしい記念講堂の建設が計画されています。年々本校の教育内容、施設ともに充実し、高い評価を得ていることは喜びにたえません。

さて、この一年間をふりかえってみますと、編集委員会としては、最近になく活発な活動を行ってきたと思っております。とくに編集委員会と新聞部が合併後、初の催しとして学校祭には私たちの仕事の内容を紹介する展示室を設け、大きな反響を呼びました。なかでも、歴史的な「ひめまつ」創刊号から最近号の四十号までを一堂に展示しましたが、その折会場で行ったアンケートでも「学校祭のなかで最もよかった」との回答が一位を占めました。

これも顧問の、和久 誠、山中晃子、黒子 仁の三先生をはじめ編集委員の方々のご指導ご協力によるものと心からお礼申し上げます。

なお、最後になりましたが、今回は例年になく多くの原稿が集まり、全部掲載できなかったことをお詫びいたします。(編集委員長・大島芳子)

## 校 史 と 校 章

今年11月には87年の歴史を刻む本学園の創立者、須賀栄子先生は、女子に最も適切な技芸を教授し、その時代と境遇とに順応すべき実際の婦人の養成を教育の主旨とし、共和裁縫教習所から、共和裁縫女学校、宇都宮須賀女学校、宇都宮女子高等職業学校と校名を改め、発展されていきました。その後を須賀友正先生が受け継がれ、学制改革により、宇都宮須賀高等学校へ改正され、更に、宇都宮短期大学を設置し、高校も宇都宮短期大学附属高校へ改名致しました。しかし、昭和57年の9月1日にお亡くなりになられ、この後を受け継がれたのが、現校長先生でいらっしゃる須賀淳先生です。先生は、宇都宮短期大学附属中学校を設置し、様々な功績をあげ、現在に至っております。

我が校の生活目標である「一人は一校を代表する」という言葉の意味は、生徒一人一人が、それぞれに、本校生徒としての価値を知り、その価値を自分で見捨ててはいけないという事です。「一人」という人間の価値を見逃すことなく、それぞれの価値を自覚することこそ、人間の大きな喜びであり、幸福への素材であるとし、学校は、その価値のあり場を認識して、そのあり方を勉強する場であるというのが、須賀栄子先生のお考えで、私たちは現在、この言葉を胸に、本校生徒としての価値を認識し、生活しています。

本校が、現在に至るまでは、いくつかの校章がありました。現在使われている校章の由来は、須賀学園の「ス」をカタカナ文字で表わし、3つ合わせたものです。

「ひめまつ」第四十二号(非売品)  
昭和六十二年三月十日印刷発行

宇都宮市睦町一番三五号

宇都宮短期大学附属高等学校

編集人 顧問 和久 誠

発行人 生徒会長 山越 悦子

印刷所 宇都宮市鶴田町二三五九の一

ヤマゼン印刷株式会社

印刷人 山本 征一郎

〒320 TEL 〇二八六(34) 四一六一(三番)

発行所 宇都宮短期大学附属高等学校生徒会